

親鸞さまの

【本文】

ぶっちぎわく
仏智疑惑のつみにより

けまんへんじ
懈慢辺地にとまるなり

ぎわく
疑惑のつみのふかきゆえ

ねんさいこうしゅ
年歳劫数をふるととく

【意記】

阿弥陀様の仰ることを、上から目線で聞く人はその結果として、

阿弥陀様のお浄土以外の所に往くこととなります。

そのような行いをする根は深いため

何度生まれ変わり死に変わりしても同様の結果になつてしまうので、まだからこそ、日頃から法話を聞くようにしなければなりません。

【私の味わい】

「昔に戻れたらなあ、そんなことを思われたり、お話をされたことはないでしょうか。昔の楽しかたこと等を懐かしむのは人として自然の情です。さらに「あの時こうしてれば」と思うこともあるかもしれません。映画の題材にも、過去に戻たり、変えたりということがしばしばあります。映画「タイタニック」(19世紀末の小説が原作)では、亡き恋人を救うため、過去に未来に行き来をすることによって解決策を探る主人公の姿が描かれています。

人生相談においても、過去の選択、失敗を後悔して前に進めないというご相談がしばしば寄せられます。また、心理学を根拠とした過去の親子関係や生育環境が原因で、今の生きにくい状況になっている、という見方もあるようです。

一方、お釈迦様は、過去は過ぎ去って捨てられたもの、未来は未だ来たらざる手が届かないもの、過去を追わざれ、未来を願わざれ、ただ今日なすべきことを熱心になせと教えて下さいます。今この文章を読んでおられる方は、既に仏縁のあたお方です。為すべきことを知たお方です。南無阿弥陀仏つまり阿弥陀様の必ずあなたをお浄土に往生させるこの阿弥陀を抛り所にしてくれよ、南無してくれよのお心を聴くことの大切さに触れているお方です。今日も、明日も、明後日も続けていく今、今の連続に為すべきことを出来得る限りで大切にしていこうことにこそ、過去に未来に囚われな